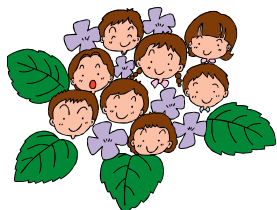


TNBだより



令和3年7月



今年度になってからも、新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらの教育活動が続いています。コロナ禍にあっても、子どもは一生に一度の現学年を生き、日々成長しています。できる範囲で、培いたい力や教育的な価値づけを意識して、子どもの更なる成長につなげたいものです。

さて、今年度より中学校で新学習指導要領が全面実施（小学校は昨年度より）されています。その中に、次代を担う子ども達に必要な「3つの資質・能力」が謳われています。

新しい時代に必要な資質・能力として、

- ①知識・技能が習得されるようにすること
- ②思考力、判断力、表現力等を育成すること
- ③学びに向かう力、人間性等を涵養すること

そして、この「3つの資質・能力」を育成するために「**主体的・対話的で深い学び**」の視点での授業改善が求められています。

また、この「3つの資質・能力」が評価の観点になっています。ですから、この「資質・能力」の育成を意識した（評価につなげる）単元計画や授業づくりが必要です。

特に、「**学びに向かう力、人間性等**」については、従来の「関心・意欲・態度」の観点から評価されてきた「主体的に学習に取り組む態度」が「**学びに向かう力、人間性等**」となり、「態度」から「力」へ変わると共に「人間性」が入りました。よって、「主体的に学習に取り組む態度」に加えて、「感性、思いやりなど」の観点が入ることになります。

- ①「**主体的に学習に取り組む態度**」：見た目の意欲だけでなく、「知識、技能を習得するために、どのように工夫し実践したか」「どのように解決しようとしたか」等の視点が大切です。
- ②「**感性、思いやりなど**」：「多様性や違いを尊重する態度」「互いのよさを認め協働する力」「リーダーシップやフォローシップ」「優しさや思いやり」等の視点が考えられます。個人内評価をし、観点別学習状況の評価には入れません。

さて、新たな評価が求められる中で、「先生が教え、子どもに覚えさせる」だけの授業が中心になっていないでしょうか。スペインのサッカーチーム（ビジャレアル）でコーチをされている佐伯タ利子さんが書かれた「**教えないスキル**」より、少しお伝えします。

1 安全安心な環境

- ・何を言ってもダメ出しをされる環境では、人は心のシャッターを下ろし何も意見しなくなる。「何を言っても、何をやっても、受け入れてもらえる」安心安全な環境でこそ、選手たちは成長できる。

2 個別のアプローチ

- ① 主観だけで考える癖をなくす
 - ・「この選手はこういう子」と主観だけでラベリングしない。
- ② 自分の考えを一方向的に伝達しない
 - ・コーチの考えを一方向的に伝達するだけでは、選手は何も考えず言うことを聞くだけ。



③答えに正解はない

- ・「そこにパスして」「そこでシュートしろ」と、コーチの「こうしてほしい」を伝えていたが、フットボールの答えに正解はない。「僕たちはこうしたい」と答えを追求する流れをつくること。

3 指導者の役目

- ・「失敗しないように導く」のではなく、失敗を恐れず踏み出せる子、失敗を糧にできる子を育てること。
- ・「なるほどね」と耳を傾けられる大人たちがいる空間を、人材育成の現場でつくり上げていく。そのためには、人と人との関係性を対等にしていくことが重要。

4 指導者＝ファシリテーターである

- ・（私は）「子ども達を勝たせるために、いっぱい練習させる」（僕は）「チームを強くするために練習させる」どちらも、主語の（私は）（僕は）は指導者になっている。
- ・「選手の学びの機会を創出するファシリテーター」が指導者なら、その学びの機会を享受する選手は活動の「主体」。つまり「主語」になる。
- ・「私は（僕は）勝ちたいから、練習する」と、子どもが主体的に考えて動くようにすることが大切である。



5 主語を選手にするチャレンジを

- ・「教える」は指導者や上司が主語、「学ぶ」は選手や部下が主語になる。
- ・したがって、手取り足取り教える代わりに、選手が心地よく学べる環境を用意し、学習効果を高める工夫をする。「教え方がうまい」といった指導スキルではなく、選手が学べる環境をつくるのが育成術の生命線になる。
- ・考える癖をつけることに重きを置き、考える余白をつくってあげる。
- ・一方的なコーチングをせず、問いをつくることに心を砕く。
- ・選手たちが「学びたい」と自然に意欲がわくような環境を整備する。
- ・伸ばしたい相手を主語にすれば、誰しもがその相手のために心地よい学びをつくろうとする。誰しもが工夫し始める。

6 「頑張る文化」から「創造する文化へ」

- ・日本のスポーツ界には、一生懸命頑張る文化はあるけれど、選手が自ら考えて行動する文化がなさすぎる。
- ・頑張らせる指導（教育）はあるけれど、自ら考えて創造したり、自分で判断したりする力を養う指導（教育）がない。

7 認知力を育てる

- ・禁止事項が多い中で「これとこれはいいですよ」と示されたものに従って生きている。ほとんどの場合大人から一方的に説明を受け、規律や決め事が多く、守らなければ罰を与えられる。従って、自分で何かを考えて、選択して行動する機会が非常に少ない。
- ・「認知力」は、禁止事項があまりなく、自由で、たくさんの選択肢から選ぶ機会が多い環境で養える。よって、子どもが自由に選べる環境で認知力を育てていく。
- ・日本の環境は、判断を養う教育が施されていない。選択の機会や失敗する機会が与えられていない。

* サッカーのコーチが書かれたものとは言え、教育に通じることも多いと思います。何か意識しようと思われることがあれば幸いです。※参考文献 「教えないスキル」（佐伯タ利子著）